

令和8年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録

1 日時 令和8年8月7日（金） 午前10時～午前11時20分

2 場所 市役所2階205・206会議室

3 出席委員

須田委員、星野委員、塩野委員、田邊委員、熊谷委員

4 議事

（1）委嘱状交付

（2）報告事項

ア 令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業について

イ 旧デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業について

（3）協議事項

ア 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和5年3月改訂版）の推進について

イ 地域未来交付金（青梅スタジアム整備事業）について

（4）その他

次回の開催について

（配布資料）

資料1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会設置要綱

資料2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

資料3 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会の会議の公開等に関する取扱要領

資料4-1 令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業

資料4-2 旧デジタル田園都市国家構想交付金活用報告

資料5-1 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標の状況

資料5-2 地域未来交付金（青梅スタジアム整備事業）

資料6 第7次青梅市総合長期計画実施計画（令和8（2026）年度）【抜粋】

発言者	会 議 の 概 要
	(開会)
	(1) 委嘱状交付 市長より星野委員に委嘱状交付
事務局	(2) 報告事項 ア 令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業について <資料4-1を用いて説明>
委員	物価高騰対策地域商品券事業はどのような形で利用されているのか
事務局	市民1人あたり6,000円分の商品券を市内の事業参加店舗等にて利用可能であり、令和8年7月末時点で全体の34%が利用されている。
委員	地区によって商品券が届いている地区とそうでない地区があるようだ。配布時期のズレや未配布の地区はあるのか。
事務局	配布方法は委託事業者に任せているため、地区によって配布時期のズレが生じることはあり得る。令和8年7月末時点で、対象世帯のほぼ全員へ配布が完了している。
委員	家族の中でも配送時期がずれることがあるようだが、そのような状況はなぜおこるのか。
事務局	原則、個人ではなく、世帯主宛に世帯の人数分の商品券を配布している。
委員	紙の商品券は、誰もが利用できる一方、利用された店舗が金融機関で換金するにあたり集計の事務が発生する。 決められた限度額まで利用できるクレジットカードや電子決済など、今後に向けてより良い方法を検討してもらえると良いと思う。
事務局	支援対象や事業規模に応じて、電子決済サービスの導入も含め検討していきたい。今後に向けた意見として、参考とさせていただく。
委員	公共交通事業者支援事業の対象者は、市内の全てのタクシー・バス事業者か。

事務局	市内に営業所があるタクシー・バス事業者を対象とした事業である。
事務局	(2) 報告事項 イ 旧デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業について <資料4-2を用いて説明>
委員	AI を活用した電話応答自動化事業について、対象手続き数と受付件数は報告があったが、実際にどのくらいの時間が生み出されたのか。
事務局	案件によって電話対応時間が様々なため、導入により生み出された時間の把握はできていないが、閉庁時間中にも受付対応できており、市民サービスの向上につながっていると捉えている。
委員	マイタク事業について、利用できるタクシーが限られており、雨の日などはタクシーが捕まえられないという話を聞いている。 利用できるタクシー事業者を増やすなど、利便性向上に向けた計画はあるか。
事務局	対象事業者拡大に向けて取り組んでいるところである。
委員	タクシー利用対象者のうち、登録者はある程度想定された人数か。 また、一利用登録者が複数回利用することで利用数が伸びているのか、まだ登録していない方がありそうなのかの状況は把握されているか。
事務局	75歳以上、65歳以上で運転免許証をお持ちでない方、運転経歴証明書をお持ちの方、妊産婦の方、障がい者の方が対象であり、利用実数は想定以上に増えている。
委員	妊産婦の方も対象者になっているが、対象期間をどのように把握しているのか。
事務局	妊産婦の方は、分娩予定日の12カ月後の月末まで利用できる仕組みとなっている。
事務局	(3) 協議事項 ア 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和5年3月改訂版）の推進について <資料5-1を用いて説明>

委員	延べ宿泊者数は、かなりの人数が増えている。クマ騒動などもあり、奥多摩では観光客、ハイキング客が減少して困っているようだ。青梅市は影響はないのか。また、宿泊者数がどの地域に増えているのか、把握していれば教えて欲しい。
事務局	どの地域に増えているかは把握していない。クマの影響で宿泊予定の方がキャンセルされるなど、少なからず影響はあると承知している。 一方で、御岳登山鉄道の利用者数は増加している。そのため、昨年度は、クマ騒動による直接的で大きな影響は無かったものと捉えている。
委員	延べ宿泊者数など、すでに令和7年度で令和9年度の目標数値を達成している項目は、どのように分析して今後の取り組みを実施する計画があるのか。
事務局	基本的には、毎年、各担当課にて事業の振り返りや検証、新たな施策の検討などを実施している。 また、今後、まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定を予定しており、その中でKPIの見直しも検討を進めたいと考えている。
委員	移住相談について、体験事業や様々な取り組みが行われていて効果が出ていると思う。その上で、青梅市で暮らしていくためには仕事をするという観点もあるが、そのことに対しての支援の取り組みなどがあれば教えて欲しい。
事務局	青梅に移住をご希望される方は、テレワーク等で仕事はそのまま移住を希望される方が多い。そのため、仕事についての相談は少ない。 一方で、移住者向けに、創業支援の加算措置を行っており、青梅市での創業につながるよう取り組んでいる。
委員	とてもよく理解できた。 現在、国が医療福祉支える求人充足プロジェクトを展開している。その中で、青梅市を含めた西多摩地域の医療機関・介護施設等では、寮がないため採用が困難であるという声も耳にする。そのため、環境が恵まれている青梅市などへ引っ越し、医療機関等で働くという仕組みがあると良いと思う。
委員	移住者の年齢層はどのような比率になるのか。
事務局	感覚として、現役後の世代というよりも、生産年齢である世代、子育て世代が多い。また、世代や移住前の居住地など様々であるのが現状であり、幅広い層から移住していただいていると捉えている。

委員	移住後に転出してしまう事例等はあるのか。
事務局	転出者を確実に把握は出来てはいないが、件数は少ないと考えている。 また、本事業の対象者は、市へ移住相談をしていただいた移住者である。 移住後のミスマッチを防ぐ観点から、移住予定者が市内協力事業者に宿泊した際に助成する制度を実施する等、青梅市に移住した方が良かったと思えるよう、事前に対応している。
委員	「創業支援を受け市内で創業した創業者数」の件数が減っているが、原因は把握しているか。 また、改善策はどのような予定か。 移住支援と連携して取り組むとより良いのではないかと思う。
事務局	創業セミナーの受講者数も減少傾向であり、創業者の件数が伸び悩んでいると考えている。
委員	「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と感じた児童生徒の割合について、様々な生徒、児童への対応によって、授業に集中することが難しい環境があると聞いたことがある。 学校単位で、とても特色ある授業に取り組んでいると思うが、そのような環境の中で、この割合が減少してしまう懸念があると思う。
教育長	全国学力テストの一環として調査した結果の数字である。 今ご指摘いただいた環境については、各学校と教育委員会が連携して対策に取り組んでいる。 夏休み前に少しずつ改善傾向にあったが、夏休み明けの状況について、引き続き注視しながら取り組んでいく。気になる情報があれば、教育委員会へ教えて欲しい。
事務局	(3) 協議事項 イ 地域未来交付金（青梅スタジアム整備事業）について <資料5-2を用いて説明>
委員	駐車場についてはどのような改修予定か。
事務局	現在、約100台強が駐車可能である。 現時点では改修予定はない。イベント等においては、開催者が調整するものと捉えている。

委員	市内で開催されているマルシェなどでも５０台ほどは駐車スペースが必要なことから、高速道路からのアクセスが良いので、駐車場が狭いのはもったいないと思った。 青梅スタジアムを軸とした市内東部の魅力と回遊性向上について、詳細を教えてください。
事務局	岩蔵温泉などが市内東部の観光地としてある中で、河辺からのアクセスだけでなく、飯能市や入間市からのアクセスをより活性化する起点としても整備する予定である。
委員	渋滞対策などはどのような予定か。
事務局	現在、青梅インターチェンジの北側において、物流等の区画整理に取り組んでいる。その中で、インターチェンジから出た場所の交差点の整備も行う予定であり、物流も含めて対策を進めていきたいと考えている。また、今後の状況の推移によって、必要な対策を行いたい。
市長	ＢＣリーグ公式戦時のイベントなど、長期的な視点で、野球をしている市内の子どもたちにとって、より良い体験ができる環境を整えたい。
委員	本整備事業をきっかけとして、青梅スタジアムを中心に周辺地域がより活性化していくと良いと思う。
委員	ＢＣリーグの加盟時期等はいつ頃の予定か。
事務局	球団からは、来年度リーグ参加予定と伺っている。 来年度はあきる野市の球場を中心として参加し、青梅スタジアム整備後は、あきる野市と青梅市を中心に活動していく予定と聞いている。 青梅スタジアム整備後は、ＢＣリーグの試合も青梅市でぜひ実施して欲しいと考えている。
委員	交流イベントについて、どのような想定であるか。
事務局	選手との交流イベント等を考えている。
委員	整備後は、野球以外のイベント等で利用できるようになるのか。

事務局	基本的には、スポーツ施設はスポーツおよびレクリエーションが利用目的となる。ただ、時代とともにスポーツやレクリエーションの概念が変化する中で、市民にとって有効な活用であれば、幅広い利用も可能性は出てくるものと考えている。あくまでもスポーツ施設であるため、スポーツが出来なくなることは避ける必要があるが、プラスアルファとして効果的な活用が出来るのであれば、施設の魅力も向上すると考えている。
委員	柔軟に対応できる施設になるとより良いと思う。
委員	事務局は、今まで出た意見を今後の取り組みにどう生かしていくか、検討をお願いしたい。 6 その他について事務局から連絡事項等はあるか。
事務局	第7次青梅市総合長期計画の改定を進めている。それを踏まえて、まちひとしごと創生総合戦略も改定していく予定であり、今後、皆さま方のご意見を伺いたいと考えている。 時期は改めて事務局から案内する。
委員	以上をもって終了とさせていただきます。 (閉会)